



ヒバクシャ地球一周 証言の航海
Global Voyage for a Nuclear-Free World
Peace Boat Hibakusha Project

PEACE
BOAT

〒 169-0075
東京都新宿区高田馬場
3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561
FAX: 03-3363-7562
<http://www.peaceboat.org>

ピースボート被爆者イスラエル派遣団 概要 (2012.10.15)

1. 背景、目的、概要

イスラエルは事実上の核保有国であるが、同政府は核保有を公式には認めておらず、核兵器について議論することは同国内で半ばタブーとされている。広島・長崎の原爆被害の実相はイスラエルの人々にほとんど知られてこなかった。今回ピースボートは、日本原水爆被害者団体協議会の協力を得て、同国で初となる被爆者による証言活動を行った。その第一義的な目的は、イスラエルの人々に広く原爆被害の実相を伝えることであった。

それと同時に、この取り組みは、中東に「非核兵器・非大量破壊兵器地帯」を作るという国際構想を応援し、2012年末にフィンランドで開催が予定されているそのための国際会議への機運を市民社会から高めるために企画されたものでもある。

イランの核開発が国際的な懸念事項となり、イスラエルによる対イラン軍事攻撃論が公然と語られるなど、中東の核をめぐる緊張は高まっている。シリアをめぐる情勢も緊迫度を増している。ピースボートは中東非核地帯化こそがこうした問題の解決の道であると考え、それを促進するための「ホライズン2012」プロジェクトを進めている。イスラエルにおける同プロジェクトのパートナーである「イスラエル軍縮運動」が今回の被爆者受け入れを最初に提案し、準備にあたってくれた。

2012年9月に一週間をかけて行われた被爆者イスラエル派遣団は、3回の証言会、同国の国会議員2名を含むラウンドテーブル、多数のメディア・インタビュー、数多くの報道を通じて、イスラエル社会での核問題の公的議論促進に大きく貢献すると共に、中東地域の非核化に対する関心を高めた。また、日本とイスラエルの市民活動レベルでの連携が大きく前進した。今後の発展が期待される。

被爆者らは日本政府により「非核特使」に委嘱され、現地での会合の一部には日本大使館職員も参加した。

2. 実施主体

共催団体 ピースボート (日本、被爆者派遣責任)

責任者 川崎哲

<http://www.peaceboat.org>

<http://ameblo.jp/hibakushaglobal>

イスラエル軍縮運動 (PRM)

(Israeli Disarmament Movement イスラエル、受け入れ責任)

責任者 シャロン・ドレフ(Sharon Dolev)

<http://www.facebook.com/RPMISRAEL>

3. 派遣団員および同行スタッフ

1. 三宅信雄（みやけ・のぶお）広島被爆、埼玉県在住
 2. 土田和美（つちだ・かずみ）広島被爆、埼玉県在住
 3. 永山巖（ながやま・いわお）広島被爆、千葉県在住
 4. 杉野信子（すぎの・のぶこ）広島被爆、東京都在住
- ・川崎哲（かわさき・あきら）
 - ・カレン・ハローズ(Karen Hallows)

被爆者4名は「非核特使」委嘱

4. 行動概要

2012年9月9日(日)

午後 成田空港出発

9月10日(月)

午後 エルサレム「嘆きの壁」で「核廃絶」メッセージ

9月11日(火)

午前 ヤドバシエム（ユダヤ人虐殺追悼霊廟）訪問
ホロコースト生存者との面会
夜 エルサレムで証言会（約40名参加）

9月12日(水)

午前 東エルサレムとパレスチナ自治区を見学
夜 テルアビブで証言会（約100名参加）

9月13日(木)

午前 テルアビブで国会議員、近隣市長、NGO代表らとの会合
（日本大使館からも参加）
夜 ハイファにて証言会（約40名参加）

9月14日(金)～15日(土)

休憩、観光、反省会など

9月16日(日)

イスラエルから空路エジプトに移動

9月18日(火)

エジプト・サファガ港にてピースボートに乗船
以後、船内での証言活動
船内・寄港地では、地球一周に参加している福島大学の学生2名と共に活動
（ピースボートと福島大学災害復興研究所の協力による「福島大学ユース・プロジェクト」）

9月21日(金)

ピースボート、ポートサイド寄港

カイロにて「国際平和の日」記念・証言イベント（共催「マスターピース」）

9月23日(日)トルコ(クシャダス)、24日(月)ギリシャ(ピレウス、アテネ)での寄港地活動(取材対応や証言など)を経て、9月26日(水)夕刻成田空港帰着。

5. イスラエルで交流した主な団体

- ▲ イスラエル軍縮運動
- ▲ イスラエル・パレスチナ情報研究センター（ICPRI）
- ▲ オールフォーピース・ラジオ
- ▲ 人権のためのラビ（ユダヤ教指導者）の会
- ▲ 平和のための女性連合
- ▲ パレスチナ・ビジョン

等

6. 報道

ヘブライ語、英語（AP、ハアレッツ等）、日本語（共同通信、毎日新聞等）で多数報道。「Social TV」や「All For Peace Radio」など独立系メディアにも。



ヒバクシャ地球一周 証言の航海 Global Voyage for a Nuclear-Free World Peace Boat Hibakusha Project

**PEACE
BOAT**

〒 169-0075
東京都新宿区高田馬場
3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561
FAX: 03-3363-7562
<http://www.peaceboat.org>

ピースボート被爆者イスラエル派遣団
2012. 9. 9～2012. 9. 26

証言者略歴

■三宅信雄（みやけ のぶお）被爆当時16歳・広島被爆 埼玉県在住
爆心地より約2km地点で被爆。当時広島市郊外にある兵器工場の寮に住んでいたが、原爆投下当日は、親戚の家で療養していた母親を訪ねて市内へ向かっていた。その途中、路面電車のなかで被爆。電車内で多くの死傷者が出たが、自身は咄嗟の判断で電車を飛び降りたことにより被害を免れた。1980年代後半から証言活動を開始。活動は日本国内にとどまらず、アメリカやオランダ、カナダなどでも証言し、在韓被爆者との交流なども積極的に参加。2007年から2009年には東京都原爆被害者団体協議会の事務局長を務める。



■土田和美（つちだ かずみ）被爆当時4歳・広島被爆 埼玉県在住
友人とお遣いの途中、爆心地から2.5km地点で被爆。友人は火傷を負った。両親と弟2人、妹1人の6人家族のうち、母親と弟妹は自宅にて被爆したが、見知らぬ人の助けにより無事だった。しかし、妹が体調不良だったため相談しに医者へ向かっていた父親は1.5km地点で被爆し、原爆症によって原爆投下から1ヶ月ほどたったころに他界。2008年ピースボートが行った『第1回ヒバクシャ地球一周 証言の航海』をきっかけに証言活動を開始。現在は埼玉県原爆被害者協議会に所属し活動を続けている。



■永山巖（ながやま いわお）被爆当時2歳・広島被爆 千葉県在住
原爆投下当日、爆心地より2.9km地点にあった広島市内の自宅にて母と妹とともに被爆。屋内にいたため、3人は大きな外傷などはなかった。通勤途中だった父親は路面電車を待っているときに被爆。大やけどを負ったが、母親による献身的な看護により仕事に復帰。自身も2005年に大きな肝臓がんが見つかり手術している。2008年より本格的に語り部としての活動を開始。現在は千葉県原爆被爆者友愛会の「被爆の語り伝え研究会」メンバーとして活躍中。



■杉野信子（すぎの のぶこ）被爆当時1歳・広島被爆 東京都在住
原爆当時、爆心地から1.3km地点にあった自宅にて被爆。家にいた母親と自身は家屋の下敷きになったが、隣人に助けられ無事だった。小学2年生だった姉は、小学校から逃げる途中で偶然母親出会い、3人で広島市郊外に逃げた。中学1年生だった兄は学徒動員として爆心地近くにいたため、同級生や教師らと全員が爆死した。その後、火傷がひどかった姉も20日後に他界した。現在は世田谷被爆者の会に所属。若年被爆者のため、記憶はないが友人の誘いから同会の役員として活動。

